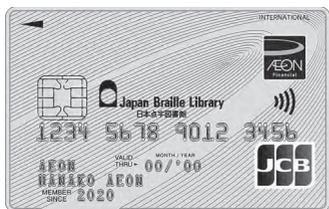




# 日本点字図書館カード 会員募集中



入会金・年会費無料

あんしんのクレジットカード  
盗難保障

※カード発行には所定の審査がございます。

カードご利用金額の一部を

社会福祉法人日本点字図書館へ寄付いたします。

寄付金は、点字図書、録音図書の製作・貸出に役立てられます。

(※カード会員さまのご負担はございません)

みなさまがカード会員となり、ご利用いただくことで

視覚障がい者の方々を応援できるカードです。

その他詳細・

お申込みはこちら

日本点字図書館カード

検索



■カードに関するお問い合わせはイオンカードコールセンターまで

電話番号: **0570-071-090** (ナビダイヤル / 有料)

**043-296-6200** (有料)

受付時間: **9時～18時** (年中無休)

お電話番号をよくお確かめのうえ、お間違えのないようご注意ください。

AEON CARD

## 宮城道雄と内田百閒について再び

ながおか ひでじ  
理事長 長岡 英司

前号のこのコラムでは、視覚障害者の読書環境の様変わりをお伝えする中で、著名な箏曲家・宮城道雄<sup>みやぎみちお</sup>と著述家・内田百閒<sup>うちだひゃっけん</sup>について触れました。その後この二人に纏わる話題が身近にありましたので、今回はそれをご紹介します。

昨年11月9日に表彰式を行なった第21<sup>ほんまかずお</sup>回本間一夫文化賞の受賞者は、ソプラノ歌手でエッセイストの塩谷靖子<sup>しおのやのぶこ</sup>さんでした。受賞やご本人についての詳細はこの後の関連記事でお読みいただけます。その塩谷さんと宮城道雄との間に接点があったことを、受賞関連の打合せをする中で知りました。東京の盲学校の小学部4年生だったときに宮城の琴の伴奏で童謡を歌われたのです。宮城は、自身が作曲した童謡をコンサートで歌ってくれる子供を幾つかの小学校に声をかけて探していました。それを知った盲学校の音楽教師が塩谷さん（旧姓<sup>ほまだ</sup>・浜田さん）を推薦し、1週間の猛練習で本番に臨みました。「夜の大工さん」と「チョコレート」の2曲でした。演奏の後、宮城は「ありがとうございます」と優しい声をかけてくれ握手をしました。柔らかな温かい手だったと覚えているそうです。宮城が列車からの転落事故で亡くなった1956年の2年前のことでした。

前回のコラムを読まれた当館元点字制作課長のKさんから文化資料室にお手紙をいただきました。内田百閒がご寄付をくださっていたという情報でした。早速担当者が古い資料を調べたところ、本名・内田榮造<sup>えいぞう</sup>でのご寄付の記録が見つかりました。1958年から69年まで毎年、当時としてはかなりの高額でした。借金が多かったと知られている内田に、このような一面があったのです。ご寄付が始まったのは、宮城道雄が事故で亡くなった2年後です。互いに尊敬し心通じていた盟友を失った内田は大きな衝撃を受け、愛知県刈谷市の事故現場を訪れることができたのは、悲劇の発生から2年後でした。読書好きだった宮城の供養として、点字図書館へのご寄付を始めてくださったのかもしれませんが。

これらを知り、著名な二人、宮城と内田に親しみを覚えるようになりました。

# 日点みんなの集い開催

2024年11月9日（土）、当館にて勇退される奉仕者の皆様、にってん野路菊賞受賞者、本間一夫文化賞受賞者をお招きして表彰式典を行いました。

にってん野路菊賞は当館の業務等へ大きく貢献くださった個人・団体を称え、感謝を表すものです。本間一夫文化賞は創立者の本間一夫を記念し、視覚障害者の文化の向上に優れた業績をあげた個人・団体を顕彰するために創設いたしました。勇退される奉仕者ならびに受賞者の皆様のご尊名を以下に記し、心より感謝申し上げます。

## ◆勇退奉仕者

いけだ み さ こ  
池田美佐子様  
さ く ま しょうじ  
佐久間昭二様  
は べ ひ さ え  
羽部久恵様  
も ほん なお み  
茂原直美様

えんどうりつ こ  
遠藤律子様  
しながわきょうこ  
品川恭子様  
ひがしのみち こ  
東野径子様

おおさわみさ こ  
大澤操子様  
しらとりやす こ  
白鳥安子様  
みやさかかず え  
宮坂和栄様

おおつかみ え こ  
大塚三枝子様  
なかしまかず み  
中島和美様  
みやべじゅんこ  
宮部惇子様

さ く ま あき こ  
佐久間晶子様  
の ざ わ と し こ  
野沢淑子様  
むら た ま さ こ  
村田正子様



## ◆野路菊賞

第31回受賞者：<sup>こうか がくえん</sup>晃華学園 <sup>むぎ かい</sup>麦の会様

麦の会は「汚れなきマリア修道会」を設立母体とする私立晃華学園の保護者の方たちで作られた会です。当館での活動は1976年からで48年に及びます。活動初期は録音図書のカセットテープの包装を剥く作業やラベル書き、消磁作業などから始まり、現在では毎月5千枚以上郵送するCD雑誌の宛名ラベル貼りや封入、郵送ケースのリサイクルといった地道な作業で当館の根幹である貸出サービスを長年にわたり支えてきていただきました。当日は会を代表して岡本英子様にお越しいただきました。



麦の会 岡本英子様

## ◆本間一夫文化賞

協賛：(公財)日本テレビ小鳩文化事業団、(福)読売光と愛の事業団

第21回受賞者：<sup>しおのやのぶ こ</sup>塩谷靖子様

塩谷様は1943年生まれのソプラノ歌手、エッセイストです。8歳で先天性緑内障のため失明しました。東京女子大学で数学を専攻し、卒業後は日本初の全盲プログラマーとして旧・日本ユニバック(現・BIPROGY)で点字変換用ソフトを開発しました。結婚、子育てを経て、盲ろう者のための通訳手段である指点字の通訳者として活動する傍ら、42歳の時に音楽大学の教授の勧めで声楽を学び始めると、各種コンクールで優秀な成績を収めてキャリアを確立しました。また、近年は多彩な人生経験を踏まえたエッセイなどで文筆家としても活躍されています。新技術に挑戦し後進へ道を切り拓いた功績は素晴らしく、40代でキャリアチェンジして飛躍した実績は、人生100年時代の生き方として、多くの人に勇気と希望を与えるものです。



塩谷靖子様

## 塩谷靖子様 本間一夫文化賞受賞記念講演

「靖子さんの考案した略字が今も大勢の盲ろう者に日常的に使われていて、なくてはならないものになっていますよ」講演で紹介された東京大学先端科学技術研究センター・福島智教授からのメールです。

「略字」とは盲ろう者が使用する指点字の略字を指します。点字は6つの点から成り立ちますが、指点字は両手の人差し指・中指・薬指を点字タイプライターの6つのキーに見立て、点字を打つように指に触れ、内容を伝えるものです。略字の使用で打つ回数が減り、効率的に情報を伝えることができます。この略字を考案されたのが塩谷様です。声楽家としての奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門・奨励賞の受賞や、日本エッセイストクラブ会員としての多彩な執筆活動のほか、この盲ろう者支援においても多大な功績を残されています。

恩師の尽力で当時まだ例の少なかった点字受験で東京女子大学文理学部数理学科に進学され、点字使用者の理系大学入学の第1号となり、卒業後は日本ユニバック株式会社（現 BIPROGY 株式会社）でプログラマーとして活躍されます。その後、盲ろう者通訳に尽力し、略字を開発されました。「あちこち好きなことに手を出していただけ」とおっしゃるその裏には並外れた行動力に加え、道を究める方の信念を感じました。

当日は歌唱と講演の2部構成でした。前日の11月8日に81歳を迎えられたとは思えない圧倒的な歌声で、歌唱用ではない会場にもかかわらず6曲を歌い上げてくださり、優雅なひとときとなりました。著作権の兼ね合いで「にってんデイジーマガジン12月号」には2曲と講演部分を掲載しています（利用者の皆様へのみのご提供となります）。

塩谷様は幼少期に高田馬場にお住まいだったことから、遊びに行く感覚で度々当館に来館されたとのこと。「日点で本を読んだり、借りたりしたことが後に文章を書くことに繋がったのではないか」とのお言葉は当館に身を置く者として大変嬉しく拝聴しました。創立者の本間もさぞ喜んでいることと思います。



## 前向な生き方が人生を輝かせる塩谷靖子さん

いわかみ よしのり  
壺友会法友文庫点字図書館館長 岩上 義則

第21回本間一夫文化賞にソプラノ歌手の塩谷靖子さん(81)が決まったとき、私は長年の友人として心からの祝意を伝えた。受賞につながる直近の話題と云えば、昨年、旧東京音楽学校奏楽堂主催による日本歌曲コンクールで塩谷さんが奨励賞に輝いたニュースがある。だから、本間一夫文化賞の審査員にもそれが強い印象を与えたであろう。旧東京音楽学校奏楽堂は、日本で唯一の国立総合芸術大学として創設以来、世界水準の教育研究活動を展開し、多くの傑出した芸術家を育成・輩出する東京藝術大学の中であって、1890年から1979年まで使用され、その後台東区に譲渡され現在地に移築された音楽ホールである。

確かに彼女の歌唱力はレベルが高いし、一向に衰える気配が見えないので、ど素人の私にもすごさを感じさせる。塩谷さんの歌唱力が維持されるのは、毎日のたゆまぬ練習と、年に数回にも及ぶコンサートへの出演を確保してレベルを落とさぬように努める姿勢と心がけがあるからにほかならない。本間一夫文化賞授賞式の後には塩谷さんの講演と歌があったが、この日の発声も一段と冴えていて「日点みんなの集い」の参加者を魅了した。その中には、塩谷さん自身が作詞、ルヴォー&フランソワ作曲の『いとしのマイ・ウェイ』もあって、彼女の多才ぶりを改めて知ることになった。また、塩谷さんは随筆のコンテストにも何度も入選していて、文章力においても抜きん出ている。それに、野鳥が好き、鳴く虫が好き、草花が好きなど趣味が広い。家は荒川に近くて緑豊かな公園もあるので季節の野鳥が多く来て楽しいと言う。私も野鳥が好きだから、ぜひ一度行ってみたい。

お互いに傘寿を越える身になった。私は耳が遠くなったが、塩谷さんは鼻にきているらしい。それは高齢による現象だからしょうがない。今与えられている恵みに感謝して前向きに生きよう。そして、音楽や野鳥や読書のことなど、たくさん話したいことがあるので、これからも時々会って楽しい時間を過ごしたい。

## 表彰のお知らせ

長年にわたり、当館のボランティアとしてご活躍くださっている方々が、下記の大会において表彰されました。おめでとうございます。

### 第73回東京都社会福祉大会

#### 知事感謝

すみれの会様：〈点訳〉平成5年よりプライベートサービスで点訳57,143ページ。

#### 会長表彰

近江千恵子様：〈朗読〉平成18年より41タイトル、298時間。

点訳の会恵泉様

：〈点訳〉平成15年よりプライベートサービスで点訳48,613ページ。

土井京子様：〈点訳〉平成7年より点訳57タイトル、232巻、27,563ページ。校正22タイトル、122巻。

#### 会長感謝

河田知津子様：〈テキストデイジー〉平成12年より112タイトル、30,089ページ。

### 第54回朗読録音奉仕者感謝の集い（鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会共済）

#### 関東甲信越地区表彰

山崎玉代様：〈朗読〉平成18年より朗読105タイトル、841時間。

細野紀美子様：〈デイジー編集〉平成13年よりデイジー編集197タイトル、1,757時間。

※表彰の実績は、推薦時のものです。

# 点図への期待と課題

日本ライトハウス情報文化センター おくの まり  
奥野 真里

2025年はフランスで点字が考案されてから200年。点字考案200年記念事業推進委員会による点字の未来について考えるイベントの第4弾は、昨年11月11日、「日本における点字普及の課題を考える」と題して、東京でシンポジウムが開催され、約100名が集い、触図について、3人のパネラーの報告と熱心な意見交換がなされました。

おおうちすむ  
大内進氏（手と目でみる教材ライブラリー）は、触る教材には2次元（図）、2.5次元（半立体）、3次元（立体）があり、利用者の学習段階に応じてこれらを使い分ける必要があることを強調。図や立体資料だけでは不完全で、言葉（文字）による補足も重要であることと点図において触知可能な線の高さ、B5サイズよりも大きい用紙を用いた点図作成の取り組みも必要ではないかと問いかけました。

長岡英司氏（日本点字図書館理事長）は、これまでに開発・普及されてきた国内の触図の用具・機器類や、同館で製作された貴重な点図資料などを紹介し、今後、点図作成者の人材確保や、触図の素材、さらに点図を読むための端末など機器類の開発が必須であると述べられました。

キム デ ス  
金台守氏（Dot Inc.）は、韓国の自社で開発した点図ディスプレイ「Dot Pad」の紹介とともに、開発・普及に至った経緯を報告しました。同機は点字だけではなく、点図も表示できるB5サイズのピンディスプレイで、PDFデータ等の画像を点図に自動変換して表示できる他、接続したiPadの画面に指で線をなぞると、瞬時にディスプレイに表示させることも可能です。今後は公共の場で使用するマップ等での活用を検討していくそうです。

資料のビジュアル化が進む中で、言葉による説明だけではなく点図表現への期待も高まっています。用具・機器類の開発なしに前進することはあり得ず、触覚資料を製作する人材養成、点図等資料の素材や製作方法などを検討することが両輪で取り組まれなくてはならないと痛感しました。

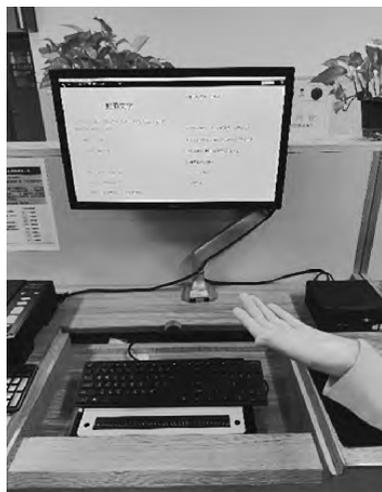
# 国立台湾図書館と楽生院を訪問して

図書製作部長 さわむら じゅんいちろう  
澤村 潤 一郎

国立台湾図書館は台湾に3館ある国立図書館の一つで、前身は台湾総督府図書館です。2024年創立110年を迎えたのを記念して、図書館サービスのバリアフリーとサステナビリティをテーマとした国際シンポジウムが、10月4日に新北市の同館で開催されました。当館から理事長の長岡と筆者が招待を受け、「視覚障害者の知の自由のために一日本点字図書館の取り組み」と題して、二人で1時間の基調講演を行いました。

図書館、大学、特別支援教育、行政等の関係者約100人の参加者から講演後も様々な質問を受けましたが、私たちとしては台湾の取組みを知りたいところです。国立台湾図書館には1975年に設立された「視障資料中心」（視覚障害者資料センター、以下センター）があり、同館は台湾における読書バリアフリーサービスの中心的役割を担っています。シンポジウムの翌日、短時間ではありましたがセンターを見学させてもらいました。

国立台湾図書館は地上6階、地下3階の大規模施設です。センターは地上・地下各1階の一角を占め、視覚障害者・聴覚障害者・学習障害者等に図書館サービスを提供しています。1階居室の中央にはパソコンを設置した閲覧机が10席あります。机の天板を外すとキーボードと点字ディスプレイが現れ、点字データや電子書籍を触読できる環境も整っていました。ソファやテーブルも置かれ、ゆっくりくつろいで読書できそうな雰囲気です。12席あるコンピューター室や、録音室も2室備えています。書庫は地下にあり、日本のように蔵書は郵送



点字ディスプレイを格納した閲覧机

でも貸出しています。紙の点字図書が利用されることは少ないそうで、点字データをCDに収めて所蔵しているのが印象的でした。

電子図書館サービスにも力を入れています。「無障礙閱讀資源整合查詢系統」(読書バリアフリー資料総合検索システム)では、同館はじめ台湾内の9館が所蔵する点字図書・録音図書・電子書籍など約7万7千件(2024年11月末現在)を横断検索し、貸出しの申込みやデータのダウンロードをすることができます。サピエ図書館に似ていますが、登録資料の状況は日本と大きく異なります。点字図書は約1万8千件がデータで利用できるのに対し、紙版の登録はその十分の一以下です。録音図書はDAISYが約6,400件であるのに対して、MP3(一般的な音声ファイル)で提供されているものはその3倍以上に上り、カセットテープは約2倍です。電子書籍はEPUB(一般的な電子書籍の形式)がほとんどです(約9,000件)。この電子図書館サービスは、スマホ・タブレット用のアプリ「無障礙閱讀」でも提供しています。

国立台湾図書館からは、一昨年より2年続けて職員が当館へ視察に訪れています。今後情報交換や交流が深まることを期待します。

滞在中、新北市郊外の楽生院も訪ねました。1930年に日本が開設したハンセン病療養所です。日本と戦後台湾のハンセン病政策を記憶する史跡であるとともに、今も在院者の暮らしの場です。一般公開されていませんが、国立台湾図書館の方にお願ひし、特別に案内していただきました。

この訪問で特筆すべきは、楽生院の若いスタッフの方が、全盲の長岡のためにボール紙と厚紙で触知図を手作りしてくださっていたことです。日本が建てた「王」の字型の病院棟や「コ」の字型の住居などが敷地内にどのように並んでいるか、今どこを歩いているか、長岡は文字通り手に取るように知ることができました。

数時間前にスライドを20枚以上費やして「知の自由」を語った私たちですが、さりげなく差し出された1枚の触知図は、そのココロをより雄弁に示し胸を打ったのでした。



手作りの触知図

ふれる博物館第15回企画展

## 「イタリアン触堂」展 開催中

ふれる博物館館長 いとう のぶざね 伊藤 宣真

来年2月から3月にかけて、冬季オリンピック、パラリンピックがイタリアのミラノとコルティナ・ダンペッツォで分散開催されます。そこで、ふれる博物館第15回企画展は、大内進先生おうちすすむ主宰の「手と目でみる教材ライブラリー」にあるイタリアにまつわる所蔵品をお借りし、一足早く様々なイタリアに触っていただきます。題して『イタリアン触堂』。

同ライブラリーは、イタリアのアンテロス美術館東京分館の位置づけでもあり、同美術館制作の半立体の名作絵画を所蔵しています。その中から常設展示の「最後の晩餐」以外に2点展示し、その他ピサの斜塔、コロッセオなどの建物、フェラーリ、「真実の口」、ゴンドラなどの模型、ヴェネチアンカーニバルに使用する仮面、茹でる前のロングパスタ・ショートパスタも展示します。

またイタリアは、障害児も健常児も共に学ぶフルインクルーシブ教育の国であり、視覚障害児が使用する教材や触る絵本も展示します。

会期は3月22日土曜日まで、開館日は祝日を除く水曜日、金曜日、土曜日です。



「ヴィーナスの誕生」(部分)  
アンテロス美術館制作 手と目でみる教材ライブラリー所蔵

【お申込み・お問い合わせ】 ※ 事前予約制です

090-3247-7290 (10時～16時) (ふれる博物館開館日のみ)

03-3209-0241(代) (9時～17時) (その他の日、本館代表番号)

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

## 視覚障害を受け入れた私

指定管理部 ICT訓練担当 たなか こういち 田中 功一

私は2年前に全盲になった中途視覚障害者です。全盲になったころは何もできない自分に立ち、今後の人生も真っ暗だと思い込んでいました。そんな中、川崎市視覚障害者情報文化センター（以下、センター）につながり訪問した際、画面読み上げソフトを使えばパソコンとiPhoneが操作できることを教えてもらいました。それが「仕事や外部との連絡もできなくなるのではないか」という不安をやわらげ、暗闇に光がさした瞬間でした。さらにデモンストレーションしてくれた方が視覚障害者だったのも衝撃的でした。「視覚障害になっても立派に働いていけるのだな」と希望が湧いた瞬間でした。

その日以来、センターで歩行やパソコンの訓練を重ね、前職へ復職を目指していましたが、思いもよらず、真っ暗闇の人生に希望の光を与えてくれたセンターに昨年4月に入職することができました。

入職後、早々にセンターが発行している新刊情報誌「ぶっくがйд」やメールマガジンで私の自己紹介文を掲載しました。内容は中途視覚障害になってから入職するまでの経緯です。この文章を読んだ方は意外に多く、ある利用者さんからの電話に出た際、「私も中途視覚障害者なのよ。あなたの気持ちはすごくわかります。あなたみたいな人が入ってくれてとても嬉しいわ」と話してくれました。とても嬉しかったです。

現在の私は主に画面読み上げソフトを使って、パソコンやiPhoneの使い方を利用者さんに教えています。一つ一つできることが増えていくに従い喜ぶ姿、もっといろいろな機能を覚えたいという姿勢が変わっていく様子を見るにつれ、おおきなやりがいを感じています。

視覚障害者になると、就労先が少なくなるのは否めません。ですがICTを身に付ければ就労できる可能性は高くなります。あきらめずに頑張れば道が開けるのです。今の私は仕事で利用者さんが喜んでくださる事が生きがいになりました。これからも利用者さんに寄り添って相談や訓練を行っていきたいと思います。

日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。



## 私と日点

希望点訳ボランティア 英語点訳ほりこしの会 かたおか かずよ 片岡 和代

東京都委託専門点訳奉仕員養成講習会英語コースの修了生の有志がグループを立ち上げて20数年。学んだ知識を無駄にせず、さらに磨きをかけるために、実際に読者に読んでもらう点訳を目指して希望点訳のグループ登録をお願いしました。当時カウンターにいらした尾崎優子おぎまゆうこさんは、いきなり売り込みに飛び込んだ私にびっくりされたことと思います。その後担当の方々には折あるごとに丁寧なご指導をいただき、今に至っております。

希望点訳とのご縁がこのようにしてできたのはとてもラッキーだったと思います。最初は「英語は少ないのよ」とのことで、依頼も数えるほどだったのですが、最近では英語を読んでもくださる方々も増えたようで、依頼数も増え嬉しく思っています。

グループにはいろいろな特技を持った人たちが在籍しています。パソコン操作に精通している人、日本語点訳に明るい人、英検1級を持っている人、校正力抜群の人、さらにコミュニケーションスキルの高い人など、自分の得意分野でお互いを補い合うことによってゆるく長く活動が続けてきました。

自身のもともとの在籍グループでの活動と英語点訳の活動と、いわばダブルワーク状態でこの活動を支えているのがメンバーリストの活用です。全員が同じ情報を共有でき、いつでも話の輪の中に入ることができるというメリットがあります。たまには考えが折り合わないこともあり、時として侃々諤々の議論が生じることもありますが、こうしたやり取りを通して多様な考え方を知ることができるのは点訳の幅を広げることにもつながります。すべてが点訳につながっていくのが点訳者の性なのでしょう。

言葉に関心を持ち、四方八方に広がっていく好奇心が私たちの活動の源になっています。つまるところ、私たちはコツコツと積み重ねていく点訳が好きなのです。

これから先も「好き」を追求しつつ体力気力が続く限り点訳を続けていきそうな気がしています。

## 支えてくださった皆様へ感謝を込めて

用具事業課 のむら あきこ  
野村 明子

当館に勤めて38年が過ぎ昨年、還暦を迎えました。

最初の配属先は用具部（当時）で、15年目に図書情報課へ異動。5年間、貸出を、その後4年間プライベートサービスを担当し、現・用具事業課に戻りました。それから既に14年が流れました。現在、課内では会計業務を受け持っています。

振り返ってみると、点字図書館らしい業務は図書情報課でのプライベートサービスです。蔵書にない図書を求めに応じて点訳・録音するこのサービスは、鍼灸など医学の専門書や地域の歴史書、料理や宗教関係書など、難しいものが多く持ち込まれました。利用者にルビや注、表の読み方、章や節の扱い、朗読者注の入れ方などを伺い、朗読者、デージー編集のボランティアへ依頼する、また完成したらCDにしてお渡しするのが主な業務でした。

初めのころは何が何だかわからずお願いしていましたので、中にはひどいお願い事もあったと思います。朗読者さんがやんわりとした言い回しで軌道修正をしてくださるなど、仕事をしていく上でいろいろ学び、ボランティアの皆様のお助けをたくさんいただきながら乗り越えることのできた4年間でした。

プライベートサービスには専門対面リーディングもあります。こちらも専門書が多かったので、医学用語を読める方、外国語に長けている方など、それぞれのボランティアの皆様にお願ひし、フル回転で応対していただきました。どなたも快く引き受けてくださり、感謝の絶えない毎日でした。無事に業務を続けられたのは、朗読者、デージー編集者の皆様のお陰です。プライベートサービスを離れてからも暖かく接してくださり、研修会などで来館されたときは、必ず声をかけて元気な顔を見せてくださいます。ご活躍を知ることができて、いつもとても励まされ、嬉しい気持ちでいっぱいになります。今もなお、お気にかけてくださる優しさに触れ、本当に感謝です。誌面を借りて心より御礼申し上げます。

4月からは再雇用となり、もう少しお世話になります。引き続きよろしくお願ひいたします。

## ◆ ◆ ◆ 明日につながる支援の力 ◆ ◆ ◆

このコーナーでは、当館をご支援くださっている団体・企業などをご紹介します。(総務部)

### 宗教団体からの支援

皆様今年の初詣はどちらに行かれたでしょうか。普段、お寺や神社に行かない方も、年に一度初詣で参詣・参拝される方が多いと思います。このコーナーでは様々な支援をいただいている企業・団体をご紹介しますが、お寺や神社、キリスト教会からも寄付という形でご支援をいただいています。

人々の幸せを願う気持ちは共通なのでしょう。視覚障害者の豊かな生活の実現のために活動する当館に手を貸して下さっています。1980年代に全国のお寺・神社宛にご支援の願いをお送りし、それに応えていただいたところが多く、代替わりをされても支援を続けて下さっています。北海道から九州まで、昨年度は180のお寺、神社、キリスト教会からのご寄付がありました。

今年生誕110年にあたる創立者本間一夫はクリスチャンでしたが、信仰にこだわらず多くのご支援に深く感謝しておりました。かわらぬご支援に感謝申し上げます。



当館に最も近い社寺・玄國寺様からもご支援をいただいています

昨年度は505団体の皆様から、合計12,023,719円のご協力を頂戴しました。お名前は当館のホームページでご紹介しております。(辞退されている団体もあり、掲載は501団体です)

[https://www.nittento.or.jp/support/report\\_support.html](https://www.nittento.or.jp/support/report_support.html)



# ご存知ですか?

## こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な商品をご紹介します。ウェブショップからもお買いものができます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ 03-3209-0751

URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

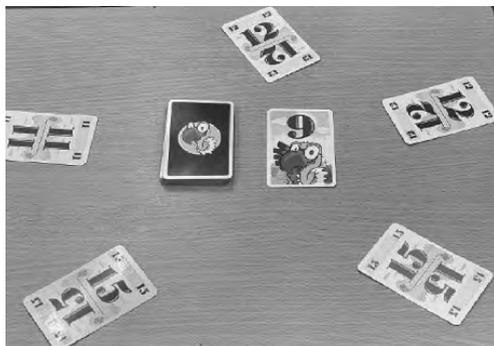
### ハゲタカのえじき (専用カードトレイ付き)

[大きさ] カード(縦) 87 × (横) 56mm [重さ] 約 220g

[対象年齢] 7歳以上

[メーカー] メビウスゲームズ

[価格] 2,860円(税込み)



便利グッズを中心に販売しておりますが、久しぶりに当館にて数字の点字シールを製作し加工したカードゲームを販売開始しました。手札の数字カードを一斉に出しあい、相手の数字カードと比べて、山札のハゲタカカードを奪い合います。最後に持っているハゲタカカードの合計点が一番多い人が勝ちとなるゲームです。ハゲタカカードにはマイナスカードがあるので、いかにマイナスをとらないかがカギとなります。

子供から大人まで誰でもわかる簡単なルールで楽しめますが、遊べば遊ぶほど、奥深さがわかってきてとっても楽しいカードゲームです。

わくわく用具ショップ一押しの商品ですので、ぜひ皆さまにもお遊びいただければ幸いです。

## チャリティコンサートご協力のお礼

昨年11月24日（日）に上野の東京文化会館にて開催しました当館のチャリティコンサート「澤<sup>さわ</sup>和<sup>かず</sup>樹<sup>き</sup> & 梯<sup>かけ</sup>剛<sup>はし</sup>之<sup>たけし</sup> デュオコンサート」に多くのご協力を賜り、誠にありがとうございました。

当日は初冬の寒さとなりましたが晴天に恵まれ、460名を超えるご来場をいただきました。澤さんのヴァイオリンと梯さんのピアノの共演に盛大な拍手が送られ、本コンサートは成功裏に終わることができました。ご支援ご来場いただいた皆様、ならびにご協賛、ご後援いただいた皆様には、心より御礼申し上げます。

次回のチャリティコンサートは、本年12月13日（土）に澤和樹さん（ヴァイオラ）、澤<sup>あき</sup>亜<sup>あき</sup>樹<sup>あき</sup>さん（ヴァイオリン）、鳥<sup>と</sup>羽<sup>は</sup>咲<sup>さ</sup>音<sup>ね</sup>さん（チェロ）、菅<sup>すが</sup>田<sup>た</sup>利<sup>り</sup>佳<sup>か</sup>さん（ピアノ・ゲスト）を迎え、今回と同じ東京文化会館小ホールにて開催いたします。どうぞご期待ください。

---

### にってんフォーラム〈第134号〉 2025 冬

---

発行 2025年1月25日〈年4回発行〉

発行人 長岡英司

編集人 立花明彦

発行所 社会福祉法人日本点字図書館

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4

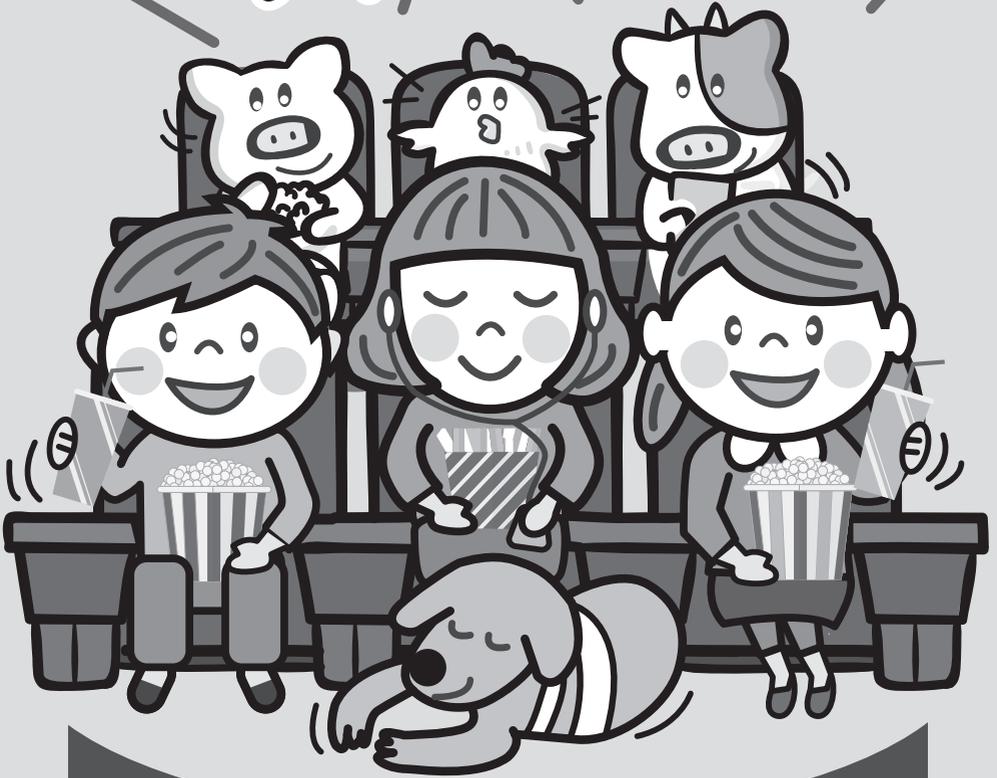
電話03-3209-0241（代） FAX03-3204-5641

URL <https://www.nittento.or.jp/>

---

\*本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、SNS等で発信したりウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

ワクワク! / ドキドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みている!

「スマホで聞く音声ガイド」



NPO メディア・アクセス・サポートセンター

〒106-0041

東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル1階

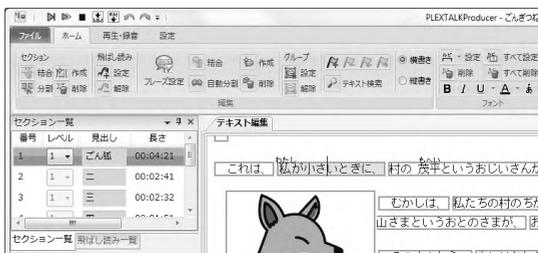
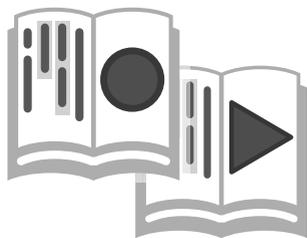
MASC

検索



ポッドキャスト

# 音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



## PLEXTALK Producer

### で作れる 新しい DAISY のカタチ

#### 音声DAISY … 録音図書標準方式

- ⊗ テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- ⊗ CD書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

#### テキストDAISY … 音声のない DAISY

- ⊗ データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ⊗ ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

#### マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ⊗ ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- ⊗ 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は [www.plextalk.com](http://www.plextalk.com) からダウンロードできます

サポート OS	Windows 11、Windows 10、Windows 8.1 以降 ※ 各 OS は日本語のみサポート
プロセッサ	Intel Core i3 以上推奨
メモリ	4GB 以上推奨

レイアウトツール 文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々！

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

PLEXTALK Producer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

販売元：

シナノケンシ株式会社

〒386-0498  
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ：

[www.plextalk.com](http://www.plextalk.com)

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。  
※ 記載の情報は2022年6月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。